

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		富士宮市立 あすなろ園		公表日		R7年 3月 10日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・子どもの主体的思いに考慮しながら、利用時間や職員配置を整理するよう声を掛け合い進めるようにしている
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		・子どもの状況や場面に応じ、クラスの枠にとられない連携や、環境改善、担任以外の職員との連携を心掛けている ・各部屋に呼び出しボタンを設置したことで、場面に応じて職員配置の連携がしやすくなった	・子どもの状況や場面に応じ、必要な支援が行えるよう職員間での情報や意識の共有を継続していくことは大切にしている	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		・環境構成を工夫しながら人的環境も環境のひとつと考え配置を工夫している		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		・クラスの情報をリーダー会で共有し、全体の環境設定について話し合ったことを日々の活動に活かすようにしている		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員会議やリーダー会、朝ミーティングなどにより、職員からの気づきの発信、共有を丁寧に行うよう心掛けている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者向け評価表に加え、行事ごとの感想や意見を聞き、保護者への感謝の気持ちを忘れず改善点や気づきにつなげるようにしている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・情報共有の時間として休憩時間も利用するなど、業務改善につながる時間作りの工夫をしている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・訪問などを積極的に受け入れ、そこからの気づきを改善につなげるよう努めている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・園内研修、係内研修で職員が学び合う時間を確保している ・外部研修への積極的な参加と共に、記録、報告による情報共有の工夫をしている		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・クラスカンファレンスを丁寧に行い、日々個別の課題について話し、それらの情報をもとに個別支援計画の作成に当たるよう心掛けている		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・最善の支援を考えるための話し合いを、一人ずつ丁寧に行い支援計画を立てる努力をしている		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・日誌記入時は支援計画に目を通し振り返りながら支援の見直しを毎日行っている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			・太田ステージやKIDSなどを用いた子どもの評価を支援の手立てにすることは、必要に応じて取り入れていくことを考えていく	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・保護者の思いをくみ取りながら、子どもの姿を捉え、日常の支援につながるよう検討している	・保護者の意向を引き出し、支援につながるよう、支援者側からの一方通行ではない丁寧で十分な説明の必要性を感じる	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・クラスで話し合い、リーダー会議、職員会議などで情報共有、検討を行っている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・子どもの様子、状況に応じた安心感と意欲感を大切に活動内容の工夫と、スピード感を持った対応を心掛けている		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			・個々に応じた計画を作成する中で、個別活動と集団活動の組み立てを、より意識して行う必要性を感じる	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・その日の子どもの状況を把握するため、ミーティングや引継ぎ記録を活用している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・掃除や休憩の時間なども使い、必要な情報を簡潔に随時伝え合う努力をしている	・療育後もサポート番や個別活動、書類記入、療育準備など業務が多岐に渡り、全員そろうての話し合いは木曜日の療育会議日になりがちで、毎日の時間確保に課題を感じる
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日個々の様子を記録しながら、自分以外の記録にも目を通すようにして、記録を療育に活かす工夫をしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			・併用利用している児の情報共有など、事業所間を越えたより丁寧な情報共有、連携をしていく必要性を感じる
	26	併用利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			・現行の「交流」を全園児、保護者に向け、より丁寧に周知していくことの必要性を感じる
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・交流圏で全体交流、個人交流を実施している	・より多くの園に受け入れてもらい交流の場や機会が広がるよう情報発信などの工夫が必要であると感じている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時の対話に加え、必要に応じ面談時間を設け、保護者の要望に応えるよう努めている	・保護者の状況により配慮を必要とする部分は、より丁寧に答えたいことが求められていると感じている
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・コロナ禍を受け中止していた親子療育の時間を、週1回毎週木曜日に再開し実施した	・保護者の要望をくみ取り、より必要に応じた情報提供ができるよう努めていく	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・日々子どもからの小さな発信、芽生えに目を向けくみ取ることを大切に療育を行い、保護者と対話していくよう努めている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・相談しやすい雰囲気作りを心掛け、保護者の様子に応じ面談の実施を行っている ・状況に応じ全体で情報共有をしながら、対応を考えるようにしている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・学年別懇談会、父親懇談会など、保護者の要望を聞きながら設定し、交流する機会を設けている ・親子療育時間保障のため託児を実施したが、保護者支援、きょうだい支援に繋がる支援になった	・きょうだい児の交流はコロナ禍で中止していたが、土曜開催の園行事にきょうだいが参観している様子も見られ、きょうだい交流の再開検討の必要性を感じる
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・研修などからも留意事項として情報を共有している	

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・保護者の理解、受け止め方を考慮した伝え方を心掛け、送迎時個々に話をしコミュニケーションを取るよう心掛けている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・南海トラフ地震臨時情報の発令を受け、臨時の引き渡し訓練を実施するなど、さまざまな場面を想定した訓練を実施し、気づいた課題を検討するよう努めている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年度初めに読み合わせをするなど、一層周知に努めたい	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			・入園時のアセスメントや面談などで把握し保健調査票で確認しているが、より丁寧な情報共有の必要性を感じる
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・医師の指示書のもと個に応じたアレルギー対応マニュアルを作成し、月1回保護者、担任、調理師でアレルギー会議を行い、献立の確認をしている ・毎朝のミーティングでその日のアレルギー食の共有を行っている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			・今後も年度初めに読み合わせや回覧を行うなど、職員への周知に努めていく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・朝ミーティングで全体共有し再発防止に努めている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止マニュアルの周知、虐待防止チェックリストの実施など、情報を共有している	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		該当なし	・身体拘束は行わないという共通認識のもと日常における安全確保など見直す意識、機会を持つようしている	